

令和5年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課
令和5年12月

はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成27年4月1日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務並びに県民及び事業者の役割を明らかにし、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を行うとともに、手話を使用する者の協力を得て、手話の普及等を推進すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう努めることが求められています。その趣旨に則って、平成28年度から令和2年度の5年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、現在でも継続して各学校で様々な手話の取組が行われております。

本事例集は、毎年5月の「手話の取組強化月間」を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で9集目になります。

ここ3年程は新型コロナウイルス感染症の影響により教育活動に様々な制約がありましたが、今年5月からは様々な活動がほぼ通常通り行われるようになり、県立高等学校及び県立中等教育学校における手話の普及・啓発が、以前のように着実に進んでいると考えます。また今年度も校長先生が取組事例をあげて解説をしている“校長のつぶやき”を紹介しています。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和5年12月

高校教育課

(表紙 平塚江南高等学校 美術部 林田凜花)

もくじ

☆手話のあいさつ	1
----------	---

☆教職員の取組

1 横浜南陵高等学校 朝の打合せ、HR	2
---------------------	---

☆授業での取組

1 神奈川工業高等学校 言語文化	3
2 岸根高等学校 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ	4
3 横浜修悠館高等学校 スクーリング「生活と福祉」	5
4 横須賀高等学校 家庭基礎	6
5 小田原高等学校 家庭総合	7
6 津久井高等学校 コミュニケーション技術	8

☆特別活動での取組

1 追浜高等学校 生徒総会	10
2 西湘高等学校 「西湘☆手話ウィーク」	11
3 上溝南高等学校 福祉特別委員「手話あいさつ週間」	12
4 厚木清南高等学校 LHR	13

☆部活動での取組

1 二俣川看護福祉高等学校 手話部による職員手話講座	14
----------------------------	----

☆図書館等での展示

1 商工高等学校 図書館に展示スペース	15
2 深沢高等学校 図書館に「手話を知ろう」コーナーを設置	16
3 二宮高等学校 図書館で図書を展示、葉の配付	17

☆複数の活動での取組

1 横浜緑ヶ丘高等学校 LHR、図書館前に常設展示	18
2 金沢総合高等学校 HR、授業、図書室にコーナー設置	19
3 田奈高等学校 LHR、授業	20
4 横浜桜陽高等学校 職員の朝の打合せ、生徒総会	21
5 横浜緑園高等学校 授業、朝のSHRや各授業の冒頭	22
6 向の岡工業高等学校 授業、LHRにおける取組	23
7 高浜高等学校 部活動、授業	24
8 有馬高等学校 職員による手話の挨拶、Google Classroom、 図書館に手話の本のコーナー設置	25
9 相模向陽館高等学校 生徒総会、図書室に手話コーナー設置	26

☆校長の取組紹介

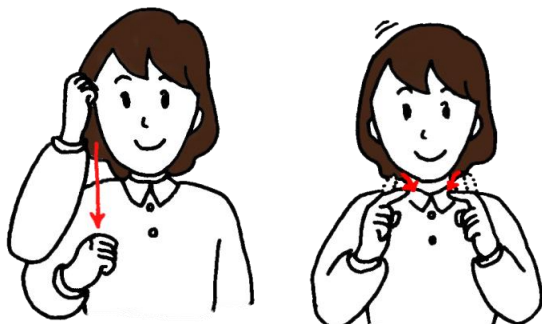
1 相模向陽館高等学校 校長のつぶやき（学校HPより）	27
-----------------------------	----

☆手話ポスター紹介

横浜立野高等学校、金沢総合高等学校、平塚江南高等学校	}	31
		32
藤沢工科高等学校、厚木北高等学校、厚木清南高等学校	}	33

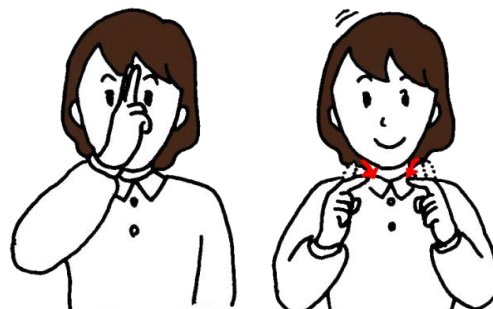
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせませす。

こんにちは



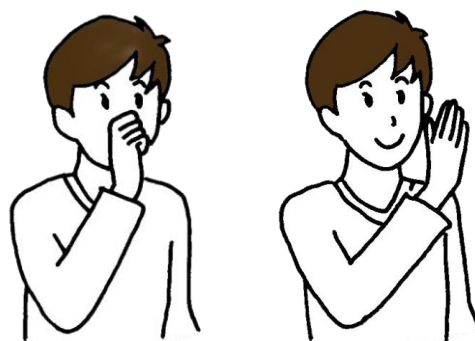
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせませす。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

1 実施回数

5回

2 対象者

全職員、全校生徒

3 実施者

担当職員、各クラス担任

4 実施内容

週1回、朝の打ち合わせにて、手話担当の職員が全職員に対し手話を紹介した。HRにて、クラス担任が手話を紹介し、生徒も実際にその手話を使ってみた。実際に紹介した手話は次の7つである。

- ①おはよう ②こんにちは ③さようなら ④ありがとう ⑤お願いします ⑥わかりました ⑦OK

5 生徒の感想等

- ・去年覚えたものがあったので、ちゃんと覚えていると確認できた。
- ・手話の成り立ちがわかると覚えやすかった。
- ・休み時間に手話を使ってちょっと盛り上がった。

6 成果・課題

簡単で日常的に使いやすいと思われる手話を紹介したため、生徒は抵抗なく手話を覚えられたようである。手話の取組強化月間に限らず、生徒が手話を使う機会を設けていくことが課題である。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

1学年の「総合的な探究の時間」で、1学年全員が校歌を手話で発表する。（2月）



1 実施回数

2回（2時間）

2 対象者

定時制 2学年 生徒

3 実施者

矢萩紗耶香（国語科教諭）

4 実施内容

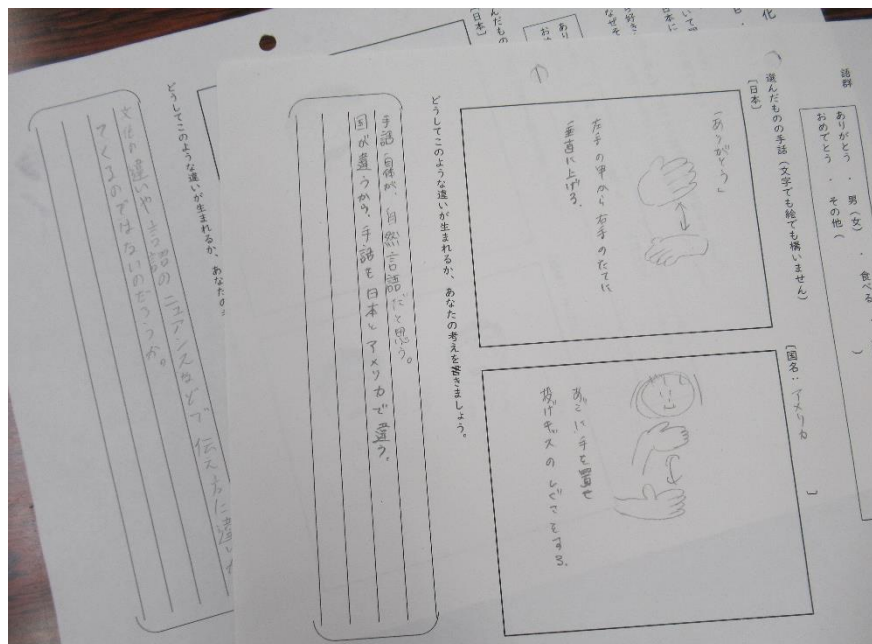
諸外国の言語と日本語の相違を考えた後、手話でも同様の差異があるか検討した。複数の言葉を提示し、それが「日本」「外国（国名を記入する）」でそれぞれどのように手話で表現されるかを調べた。調べる際には図書室の資料やインターネット等を活用した。各自でワークシートに絵や言葉でまとめた後、自分がまとめたものを生徒がそれぞれ発表した。作成したワークシートを黒板に投影して発表し、視覚的に生徒のまとめを共有できるようにした。

5 生徒の感想等

- ・（日本と外国で）同じものもあった。
- ・「食べる」は、日本人は箸を使っていて、外国人は箸を使わないから違いが生まれている。
- ・国の言語が違うように手話も文化によって多少の変化があるのだろうと推測できた。

6 成果・課題

「日本と外国の文化を言語という視点から比較する」授業の一環として手話を取り入れることができたことは成果である。まとめること自体を紙媒体でなく1人1台PCを用いるなど、ICT活用に検討の余地がある。



授業で使用したワークシート

1 実施回数

5回以上

2 対象者

1, 2学年 音楽選択者

3 実施者

田口和忠 芸術（音楽）科教諭

4 実施内容

- 音楽Ⅰ選択の1年生においては、教科書中の「翼をください」の手話の表現を自分たちで調べ教則用のスライドを作成した。同じ言葉での表現の違いや、歌詞の内容から言葉を理解しそれを手話で表現していく活動を行った。
- 音楽Ⅱ選択の2年生においては、教科書中の「上を向いて歩こう」の歌詞を読み解き手話での表現活動を行った。また両学年ともに基本の挨拶や「手伝ってください・助けてください」など日常生活において知っておいてほしい動作を繰り返し学習した。

5 生徒の感想等

- 言葉を発せずに相手に物事を伝える難しさを知った。歌詞の意味を読み解き、手話で単語をつなげていく動作を考えることが難しかったが、楽しく興味深く学習することができた。

6 成果・課題

成果としては、生徒が少しでも手話に興味をもったり、言葉を調べていくうちに少しでも表現の仕方を身につけることができた。課題としては実際に手話を使われる方との交流など、より深く興味を持てる場面が必要かと思われる。



1 実施回数

前期スクーリング中 随時

2 対象者

活動生全体

3 実施者

- スクーリング「生活と福祉」担当教員
- 手話で挨拶や簡単な会話ができる教員

4 実施内容

- 「生活と福祉」のスクーリングで手話を学習し、毎時間スクーリング開始時に練習した。
- 聴覚障がいのある生徒と手話のできる教員が挨拶や簡単な会話でコミュニケーションを図った。
- 校内インフォメーションシステムにおいて、手話の紹介を行った。(写真)

5 生徒の感想等

- ・最初は恥ずかしかったがだんだんとできるようになった。
- ・手話で会話できる先生がいて嬉しい。

6 成果・課題

スクーリング回数を考えると生徒の手話の定着は難しいが、興味を持たせることはできたと思われる。



1 実施回数
7回

2 対象者
1年生

3 実施者
平坂 まゆみ・牧野 留美子（家庭科教員）

4 実施内容

- ・手話言語条例先駆県である鳥取県の活動推進映像の視聴と手話言語条例の考察
- ・手話による自己紹介の練習（県からのリーフレット使用）
- ・手話甲子園出場の横浜南陵高校の紹介
- ・神奈川県出身アーティスト（ハンドサイン）による手話ダンス映像視聴

5 生徒の感想等

- ・手話は言語であるとの意識がなかったが、今後コミュニケーションを続けると、世界が広がると思った。
- ・耳が聞こえて当たり前という考えが、差別を助長する歴史を作ってしまったと考える。誰もが、楽しんで暮らせるように小さなことから行動していきます。
- ・多様性の時代を生きていくために、自発的に学んでいきたいと考えた。
- ・自分がもし同じ立場にたったら、悲しい気持ちと抗えない不平等さに苦しくなると思う。私たちが社会を変えていく必要がある。
- ・耳の聞こえない医師が数人いることを YouTube で知り、今は以前よりもろうあ者と健常者の差が小さくなっているのを感じた。
- ・どんな人でも自由に言語やライフスタイルが決められるように、世界が勝手に分類してしまうような境界線が溶け出したらいいなと思いました。
- ・手話は日常生活の中で当たり前のように触れ慣れて覚えるのを知り、「当たり前」の努力という言葉の意味を噛み締めた。
- ・手話は最近身近になっているが、理解したり使ったりするだけではなく、大切なのは”心”だと感じた。相手のことを大切に思う心があれば、耳が聞こえないことも超えて、通じ合えることがわかった。

6 成果・課題

手話の学びは義務教育でも実施されているため、以前よりもはるかに理解が深まり、授業に対しても積極的に取り組んでいた。鳥取県のビデオクリップは、時間を経てもなお、生徒に訴求するものがあり、他者理解について、発展的に高齢者や他の障がいについての考察もなされ、有意義な授業となった。



1 実施回数

4回

2 対象者

定時制 1 年次

3 実施者

佐古広子（家庭科教諭）

4 実施内容

- 簡単な挨拶と指文字のイラストをプリントに表示し、各自の自分の名前の表現方法を考えさせた。
- 手話を学んでみよう！【指文字・数字編】【手話実技編】（かなチャンTV）を視聴しながら、実演と一緒に基本的な手話の表現や指文字に取り組んだ。
- 授業の始めに、手話で簡単な挨拶や自己紹介をさせた。
- 指文字しりとりゲームを通して50音、濁音、半濁音、拗音、促音、長音の表現を学んだ。

5 生徒の感想等

- 初めて手話をやってみて難しかったけどそれ以上に楽しかった。
- 耳の不自由な人ともコミュニケーションがとれるかもしれないとワクワクした。
- 言葉を発しなくても手話を通して、意外と相手の表情や仕草、雰囲気などを感じ取れて心がつながることができるんだと思った。

6 成果・課題

基本的な挨拶や自己紹介を互いに伝え合うことで、相手を理解しようとする姿勢が見られた。またしりとりゲームでは、覚えたばかりの指文字などを使い、互いにヒントを出し合い楽しみながら手話表現に取り組むができた。手話言語が生活の中に自然と溶け込んでいくには、意思疎通の難しい人とのコミュニケーションの機会があれば、手話への関心や理解がさらに広まっていくだろう。



1 実施回数

2回（50分×2）

2 対象者

1学年福祉科（30名）

3 実施者

小田川 絃子（福祉科教諭）

4 実施内容

1. 手話を学ぶ前の事前学習

社会における手話の必要性や手話の実践・活用場面、共生社会に向けての取組について学習した。今回は以下の3点をとりわけ重点的に学習した。

- ①東京管区気象台の職員による、手話を交えた桜（ソメイヨシノ）の開花宣言
- ②有名コーヒーチェーン店での聴覚障がい者雇用の取組
- ③テレビ番組で手話を扱っているシーンの再現・実践

他にも手話クイズ、神奈川県手話言語条例、手話駐在所、デフリンピックの日本開催（2025年）について取り扱った。

2. 実際に手話をやってみよう

- ①自己紹介（【例】こんにちは。私の名前は〇〇です。津久井高等学校で福祉を学んでいます。私の好きな〇〇は△△です。よろしくお願いします など）
- ②簡単な会話の実践（【例】今日〇〇〔買い物、遊びなど〕と一緒に行きませんか。）
- ③興味のある単語の手話表現調べ ※生徒所有のタブレット等を使用
- ④介護現場で実践できる手話（【例】これから〇〇〔食事、入浴、お手洗い、座る、立つなど〕のお手伝いをしてよろしいでしょうか。体調は大丈夫ですか。体は痛いですか。など）

5 生徒の感想等

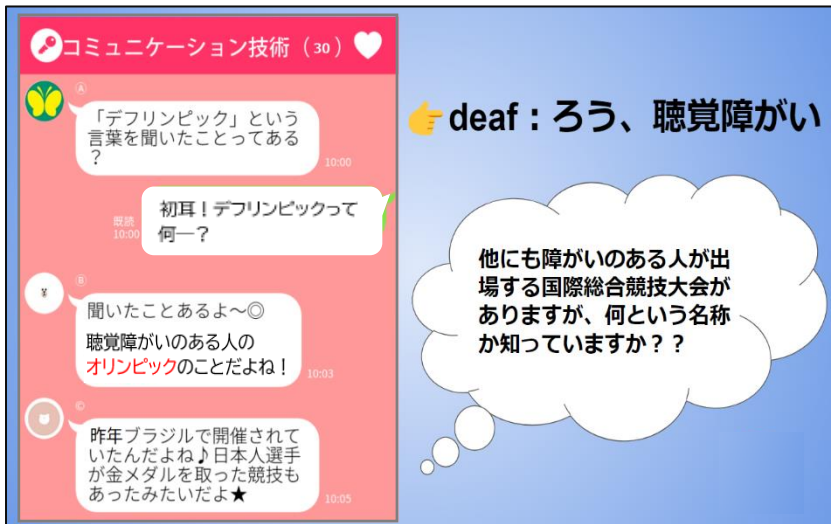
- 1つの言葉に対して表現がいくつもあり、複雑で難しいと感じたが、表現方法がたくさんあって楽しいとも感じた。
- 物の特徴で表現するものや、指文字だけで表すものまで様々な手話表現があることを知った。また、単語同士を組み合わせると会話するので、声を通して「話す」とことと変わらないと思った。
- テレビやSNSで手話を見かける機会が増えていて、以前よりも身近になっていると感じた。手話の基礎を学んで、日常生活や実習でも活用できるようにしたい。
- 手話は聴覚障がいのある方にとって一番のコミュニケーション方法であると思うので、少しでも勉強してうまく使えるようになりたい。
- 静かな場所でも会話ができるという点では、他の表現方法にはない良さを感じた。
- 聴覚障がいでも自分の声も聞こえないというのは、想像できない程大変なことだと思った。聴覚障がいのある方が少しでも安心して暮らせる社会をつくるために手話の知識を広めたいと感じた。

6 成果・課題

近年、メディアやSNS媒体を通じて手話が扱われる機会が増えたことにより、十代の若者にとっては手話が身近なコミュニケーション方法として認識されつつあると感じる。生徒から「手話の授業を楽しみにしていた」という発言も多く、この授業においても普遍的なコミュニケーション手段として手話が存在していることを感じる事ができた。一方で、聴覚障がい者の日々の困りごとや必要とされる支援、サポートについて興味・関心を寄せる生徒が比較的多かったこともこの授業における収穫だと感じる。手話や聴覚障がいに関する学習を継続的に行い、「心理的バリア」を持たないことはもちろん、当事者のニーズの核心にさらに心を寄せ、当事者が求めるサポートをさりげなく行うことのできる支援者を育てたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組

2学期初頭に、単元「聴覚障がいのある人とのコミュニケーション」を学習した。通常の内容説明に加え、聴覚障がい者の音の聞こえ方が可視化された資料を用い、伝音性難聴・感音性難聴それぞれの“聞こえづらさ”を多角的に認識できるよう取り組んだ。また、大学等における聴覚障がい学生の学習支援体制（ノートテイクボランティア）についても取り上げ、情報保障や学習環境整備の重要性について学習した。



*手話を学ぶ前の事前学習
(デフリンピックについてのスライド)



*「津久井高校で福祉の勉強をしています」の手話表現を練習しています。

1 実施回数

1回

2 対象者

定時制全生徒

3 実施者

生徒会役員

4 実施内容

生徒総会の開会時で生徒会役員の生徒7名が、挨拶及び自己紹介を手話で行う。

5 生徒の感想等

- ・混乱して難しかったけど、問題なし
- ・覚えても結構難しい。
- ・手話は恥ずかしかったが少しは覚えてみようと思った
- ・途中で頭ごちゃごちゃになってとても難しかった。
- ・手話の試みは、耳が聞こえない人に対しては良い対策とは思いました。ですが、仮にそういった人が後ろの方にいた場合、手元が見つらいと思うので、手話をする際は、手話をやっている人の手元をプロジェクターとかで拡大した方が良いな、と思いました。
- ・いいと思った。

6 成果・課題

成果は、挨拶及び自己紹介の手話のみの取組であったが、生徒が興味を持つことができた。課題は、興味を持った生徒へ手話を指導できる教員がいるとよい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

特別活動（生徒会活動）における取組（6月7日）

生徒総会の開会で生徒会役員の生徒7名が、挨拶及び自己紹介を手話で行う。（11月15日）



1 実施回数

5/15～5/19 までの一週間（5日）

2 対象者

全校生徒と職員

3 実施者

福祉委員会

4 実施内容

- ◆ mission1. 1週間授業の始めと終わりに「よろしくお願いします」「ありがとうございました」と手話で挨拶をする。
- ◆ mission2. 朝か帰りのHRで、福祉委員が簡単な手話をレクチャーする。
 - (月)「よろしくおねがいします」「ありがとうございます」
 - (火)「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」
 - (水)「どうしましたか?」「大丈夫ですか?」
 - (木)「嬉しい・楽しい」「悲しい」
 - (金)「あなたが好きです」「かっこいい!」

5 生徒の感想等

- ・クラスみんなの前で手話を披露する前はすごく緊張したけど、当日自分としては恥ずかしがらないで堂々と手話を教えることができたと思いました。福祉委員としてクラスで手話を教えられて楽しかったし、手話を使って話せたらかっこいいと思いました!
- ・手話はあまり体験することがないので少し緊張したけど、みんな真剣に覚えようとしてくれて手話ウィークが終わったあとも自分たちから手話を覚えている子もいたのでやってよかったと感じた。
- ・挨拶とかは簡単なものが多くてクラスみんなも覚えやすく、すぐみんなでやってくれて嬉しかったし、休み時間に「どうやるんだっけ?」など質問してくれて会話が手話で盛り上がりました。(以上福祉委員アンケート抜粋)

6 成果・課題

年に一度でも全校生徒が「手話」というコミュニケーションを学ぶことは、とても良いことだと思います。一週間毎日いくつかの手話を学ぶというパターンが定着してきたので、何か他にも違ったアイデアがないか、他校で実施していることを参考にさせていただいたら助かります。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

福祉委員会による参加企画 MV【手話で「上を向いて歩こう」】（2020年）と【手話で「365日の紙飛行機」】（2022年）を、来校者に観ていただく。（9月上旬文化祭）



1 実施回数

3日間

2 対象者

全校生徒

3 実施者

福祉特別委員

4 実施内容

「手話あいさつ週間」 期間：5月22日（月）から3日間

具体的な内容：

- (1) SHRで「おはよう」「ありがとう」「がんばれ・がんばる」の手話を1日1つずつ紹介する。
- (2) 福祉特別委員のレクチャーに合わせて、クラス内で1、2回練習する。
- (3) 2日目以降は、前日のおさらいをした後、新しい手話を練習する。

5 生徒の感想等

手話に触れる機会がないので難しいのではないかと考えていたが、あいさつなら簡単で覚えやすかったので、もっと知りたい。ドラマなどで広まったものをさらに知ってもらいたい。興味を持ってもらったり、知ってもらったりすることで、今の世の中でも役立つことが少なからずあるのでは、と考えた。

6 成果・課題

マスクの着用が任意になったことから、一つで複数の意味を持つ手話にも取り組めた。「どうしましたか」「お手伝いしましょうか」などの声掛けの仕方を知りたいという生徒もいた。今後は生徒の希望も吸い上げ、より実践的な手話も身につけられるよう工夫していきたい。

1 実施回数

1回（テーマ研究） 5月12日

2 対象者

定時制1学年

3 実施者

担任

4 実施内容

手話リーフレットを活用し、手話を身近に感じられるよう、生徒活動支援 G(生徒会指導 G に相当)担当から指導を行った。簡単な挨拶「おはよう」「こんにちは」や、「皆さん、卒業おめでとうございます」などを教員が紹介し、生徒にも実践させた。

「これは何の形？」と投げかけ、何をイメージしているのかを考えさせ、「連想」の大切さを学んだ。

5 生徒の感想等

- 手話に興味を持った。
- 手話を覚えるきっかけとなった。
- 手話は顔の表情も含めて読み取ると分かった。
- 「卒業」は「みんなヒント。3月だよ」と提起したら「卒業証書！」と生徒が反応した。象形としてのイメージが生徒には印象強かった。

6 成果・課題

スクリーンの映像を興味深く見て、理解を深めた生徒が多かった。定時制の全体的な行事「生活体験発表」の作文指導と時期が重なったため、多くの時間が確保できなかった。

1学年合同LHRにて

1 実施回数

職員会議（1回）

2 対象者

職員

3 実施者

生徒（手話部）

4 実施内容

職員会議にて、生徒（手話部）による手話講座を実施した。学校に関連する手話を中心に、手話部の生徒が手話を教えた。教職員には、学校に関係する手話を学ぶことで、興味・関心を高めることをねらいとした。また、授業の始まりと終わりに、手話での挨拶をすることなどを通して生徒に手話への関心を持ってもらいたいと考えた。

実施後は、学校HPへ講座の様子を掲載し、手話の取組への周知を行った。

5 生徒の感想等

生徒（手話部）は、日ごろ学んでいる手話を先生方にわかりやすく伝える方法を考え、講座を構成した。手話を身近にとらえ、授業などで使ってもらいたいと考えている。

6 成果・課題

今回の講座の内容を、実際に教職員が、授業で取り組み、生徒には手話を身近に感じられるようにしていく。手話部にはインストラクターで聴覚障がいのある先生が来校されているので、今後はその方のお話を聞く機会を設定し、手話だけでなく聴覚障がいについての理解を深められるような取組を行いたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

- ・手話部インストラクターによる「聴覚障がいの理解」の講演会を実施。（職員対象）
- ・SHRやLHR、授業などで手話によるあいさつを適宜実施。（生徒が学ぶ機会を増やす）

職員会議で、手話部の生徒と共に手話を学ぶ様子

1 実施回数

1 か月間の展示

2 対象者

全生徒・全職員

3 実施者

中山 誠（実習指導員）

石村 裕子（学校司書）

4 実施内容

- ・本校の図書館にて展示スペースをつくり、1 か月間展示を行った。多くの生徒・職員がいつでも本を手にとって少しでも興味を持ってもらえるようにした。
- ・何問かクイズをつくり、その答えをフォームで回答する方法を取った。フォームではクイズと一緒に今回の実施についてのアンケートも取った。

5 生徒の感想等

- ・なかなか手に取ることない手話の本が並んであったので、気になって手に取った。
- ・クイズがよかった。本を手にとるきっかけになった。

6 成果・課題

- ・フォームでの回答を募ったが、回答率が低く、生徒の意識調査が満足行く回答数に足りなかった。
- ・図書館だけでなく、昇降口等にも自作のポスター等を貼り出し、生徒が手話に関する興味を持てるよう工夫すべきだった。
- ・図書館で展示を行ったため、自分が気になった時に、くりかえし手話の書籍を手にして学べる場を作ることができた。



1 実施回数

5月9日～6月5日

2 対象者

全校生徒

3 実施者

横山 道子（学校司書）

4 実施内容

蔵書の中から手話に関する本、さまざまな言語やボディランゲージに関する本を選んで展示した。「手話は視覚言語です。しぐさがもとになっており、国や地方で違いがあります。表情で意味が変わります！」と解説を付け、あわせて、平塚ろう学校小学部5・6年生の「楽しい手話」ポスターをカラー印刷して掲示した。

5 生徒の感想等

手話ポスターを見て「小学生が書いたの？すごい！」と驚いたり、本を手にとって「昔すこし習っていたけど忘れかけていて、また始めようかな。」と言ったりする姿が見られた。

6 成果・課題

入口付近の目立つ場所に展示したため、「手話」という言語を来館者が意識するきっかけになった。今後は、来館しなくても展示が見られるように Google Classroom 等での発信も検討したい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

関連する蔵書が比較的古いことに気づいたので、新しい本を買い足して蔵書を充実させた。



1 実施回数

5/8~5/31

2 対象者

図書館に来館する生徒および職員

3 実施者

学校司書

4 実施内容

手話の取組強化月間の5月中に、図書館で聴覚障がい関係資料を展示した。また、5月中に図書を出した利用者に「手話を楽しく学ぼう」パンフレット掲載手話の葉を配付した。

5 生徒の感想等

期間中は、貸出手続の際に葉を付けて渡したので、「何の葉?」「5月は神奈川県の手話強化月間だから手話の葉だよ」という会話が多数あった。

6 成果・課題

手話の展示の本を見たり借りたりしない生徒からも、葉を見て、自分が知っている手話を教えてくれたり、葉の手話をして見せてくれたりした。また、ドラマをきっかけに手話を練習している生徒より、手話取組強化月間以降も簡単な手話を使って会話をしており、その生徒は受験後に手話カフェに行くという話をしている。図書の展示の時より、葉があることで手話取組強化月間というものがあると認識されているように思う。

7 手話の取組強化月間以外の取組(予定も含む)

去年と同様、新入生への図書館オリエンテーションを学校司書が手話を付けて実施。(4月)
また司書が校内で挨拶する際は、常時手話で挨拶している。(通年)



複数取組

1

横浜緑ヶ丘高等学校 LHR、図書館前に常設展示

1 実施回数

1回

2 対象者

1学年一部生徒

3 実施者

担任

4 実施内容

文化祭前にコミュニケーションをとることの大切さを実感するために、”神奈川県”オリジナルコンテンツ『かなかなかぞく』第19話「手話で仲直り」を視聴し、あいさつの手話に取り組んだ。

5 生徒の感想等

「小4の時に『世界がひとつになるまで』の歌詞の手話を全部覚えて、保護者の前で歌いながらやるという事をやったり、二分の一成人式で手話についての発表をしたりしていたので今回やっていた手話は全部知ってた。手話は耳が聞こえない人たちにとってだけでなく様々な人に需要のあるひとつの言語なんだなと思った。」「知っている内容だったが、思い出すことができてよかった。忘れていた内容もあると再確認することができたのでいい機会となった。」「ストーリーが堅苦しくなくて逆に面白かった。でも手話は覚えられた。」「枕を外す動作がそのまままで分かりやすかった。」

6 成果・課題

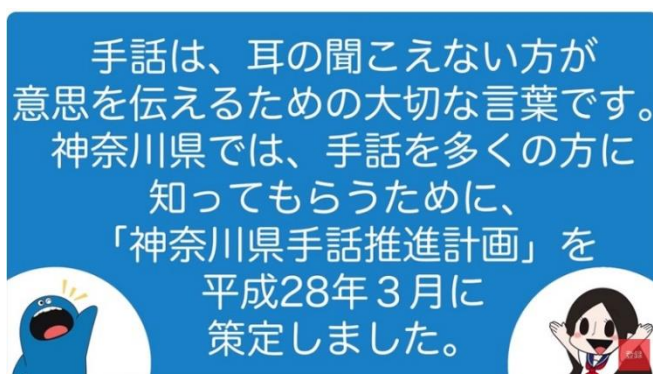
生徒たちは予想よりも積極的に取り組んでくれた。手話の歴史や、コミュニケーション論のなかでの手話の位置づけなどをテーマとして、国語・公民・外国語（英語）科などの授業でも手話を教材化して採り上げられないか検討することが課題である。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

図書館利用者の目につきやすいところに、手話に関連する本を常設展示している。（常時）



手話は、耳の聞こえない方が意思を伝えるための大切な言葉です。神奈川県では、手話を多くの方に知ってもらうために、「神奈川県手話推進計画」を平成28年3月に策定しました。



1 実施回数

5月8日～5月17日のHR、各授業

2 対象者

生徒、教職員

3 実施者

活動支援グループ

4 実施内容

- ①HRの号令の際、始めに「こんにちは」と「よろしくお願いします」の手話を、終わりに「ありがとうございました」の手話を担任、生徒とともに言い、手話を身につける。
- ②授業の号令の際にも、始めに「こんにちは」と「よろしくお願いします」の手話を、終わりに「ありがとうございました」の手話を担当教員、生徒とともに言い、手話を身につける。
- ③図書室において手話のコーナーを設け、手話への理解や普及を図る。
- ④イラスト部が上記の手話を表したポスターを作成し、各教室に掲示し、手話の浸透を図る。

5 生徒の感想等

- ・授業ごとに行うので、自然と身につく。
- ・どれも日常で使える挨拶なので、実際に外で使ってみたいと思う。
- ・ポスターを作成する際、手の表現が難しかった。手話の先生と打合せながら作成し、細かい表現に対応できた。

6 成果・課題

- ・手話で挨拶することに抵抗感がなくなり、むしろ、号令以外でも、生徒たちが使い合う姿が見受けられた。
- ・先ず、教員に浸透させるという関門があると思われた。中には実施できていない授業も見受けられた。
- ・強化月間に入る前に、朝の打合せ、職員会議など機会を見つけて、練習を行い全職員で対応したい。

SHRでの手話挨拶の様子



図書室手話コーナーの様子



複数取組

3

田奈高等学校 LHR、授業

1 実施回数

10回以上

2 対象者

全生徒（教科「情報」については1年生全員）

3 実施者

①HR担任 ②井川 亜美（情報科教諭）

4 実施内容

- ①5月の強化月間に合わせ、県から送られた「手話を楽しく学ぼう！」を全生徒に配付し、LHR等において担任から挨拶や自己紹介などの事例を紹介、実施した。
- ②1学年の生徒が「情報Ⅰ」の授業で、毎日一つ手話を紹介できる日めくりカレンダーを作成した。文書作成ソフト Word の操作方法の学習と合わせて、手話を知る機会とした。

5 生徒の感想等

「自己紹介時の指文字を覚えるのが難しい」、「あいさつ程度は全員覚えた方が良い」など、積極的な意見が多かった。

6 成果・課題

HRや授業での取組は、生徒は興味を持って取り組んでいる。少なくとも挨拶や「何かお手伝いしましょうか」などの手話など、ろう者の方への対応の仕方を全教職員及び生徒が覚え、適切な対応ができるよう、強化月間の取組の一つとして毎年必ず実施する方向で検討する。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

図書館（ぴっかり図書館）で、手話紹介コーナーを設け、手話に関する書籍等を配架するとともに、司書やぴっかりカフェ（運営主体：NPO法人パノラマ）スタッフが手話を用いて挨拶をするなどの取組を実施予定（令和5年9月）

生徒作品の例

6月16日
FRIDAY

おなかがすいた！



お腹に右手の手のひらをあてて、へこますようにしながら下げる。

お腹すいた！

横浜桜陽高等学校 職員の朝の打合せ、生徒総会

1 実施回数

①教職員の取組 3回 ②特別活動における取組 1回

2 対象者

全職員、全生徒

3 実施者

①中央委員、クラス担任 ②生徒会長

4 実施内容

①朝の打合せで担当より手話の紹介、全職員でやってみる。朝の HR で担任及び中央委員が生徒に紹介、生徒が実際にやってみる。

②生徒総会（Google Meet）で、生徒会長より手話による自己紹介を行う。

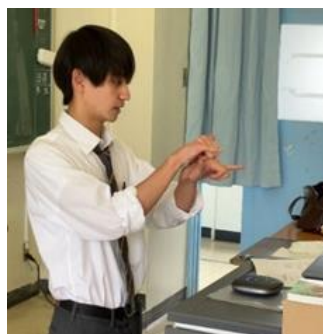
5 生徒の感想等

①もともと手話に興味があり、いくつか知っていた。クラスの前でやってみたが、興味がなさそうな人もいたので、より多くの人に興味をもってもらえるようになってほしい。

②思っていたよりも単純な動きで表すことができたので、簡単な手話ならすぐに覚えられると思った。

6 成果・課題

手話の取組強化月間が終わった後も、生徒が手話に関わる機会を継続して作っていくことが課題である。



生徒会長による自己紹介の様子①



生徒会長による自己紹介の様子②



各クラスでの実践の様子①



各クラスでの実践の様子②

1 実施回数

- ①授業における取組 15 回程度 ②特別活動における取組 15 回程度(1 週間)

2 対象者

- ①選択科目「手話Ⅰ」「手話Ⅱ」を受講する生徒 ②全校生徒

3 実施者

- ①担当教諭 ②各担任や授業担当

4 実施内容

- ①手話による挨拶や、日常会話で利用する単語などについて学習した。また、聴覚障がいについての基本的な知識を理解することで、聴覚障がい者への理解を深め、コミュニケーションツールとしての手話の必要性について学習した。
②5月中の1週間を「緑園高校 手話取組週間」とし、「おはようございます」「よろしくおねがいします」「ありがとう」の三つの挨拶をSHRや授業内で手話で表現する活動に取り組んだ。

5 生徒の感想等

- ①指文字や数字など覚えることが多く難しいが、手話の成り立ちなどを理解しながら、楽しく覚えることができた。式典などで実際に発表することができ、良い経験になった。
②普段やったことがなかったので手話で挨拶ができてよかった。ドラマで観た手話を実際に使えて楽しかった。

6 成果・課題

- ①簡単な単語を利用しながら、短い文章を表現できるようになった。
②選択授業で手話を学んでいない生徒も、手話に対する理解を深める良い機会になった。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

後期に行われる学校説明会において、手話で学校案内を行う。（学校説明会）
式典における挨拶等に関して、手話の授業を受講している生徒による手話通訳を行う。（後期式典）

手話取組週間におけるSHRの様子

1 実施回数

- ①授業における取組 4回 ②特別活動における取組 1回

2 対象者

- ①について：定時制選択科目「社会福祉基礎」履修者
②について：定時制2年次生徒全員

3 実施者

- ①について：教科担当 森本 みゆき 総括教諭
②について：クラス担任 鈴木 大 総括教諭 井本 将史 教諭

4 実施内容

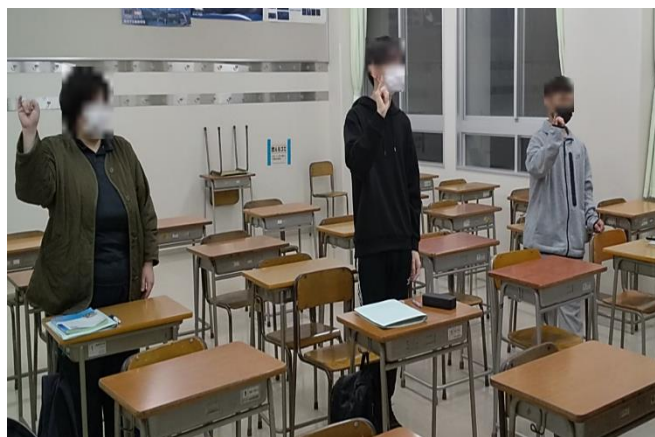
- ①について：
・県作成の「手話を楽しく学ぼう！」を活用し、授業の導入を行い、授業内で発表も行った。
・「指文字」と「手話」の両方を取り組んだ。
・杉本竜一 作詞・作曲の「Believe」を手話でできるように授業内で取り組んだ。
②について：
・LHRの中で、手話を活用した挨拶を練習した。
・資料として県作成の「手話を楽しく学ぼう！」を活用した。

5 生徒の感想等

- ①について：「難しかったけど楽しかった」「コミュニケーションには多様な手段があることが分かった。また、手話だけでなく、アイコンタクトでも意思疎通ができることが分かった」「授業で習ったノンバーバルコミュニケーションとは何かを理解できた」
②について：「特に、緊急時に使う”一緒に逃げましょう”は覚えておいた方が良かった」

6 生徒の感想等・課題

教員が考えている以上に興味を持つ生徒が多いことが分かった。手話月間を有効に活用し、場面に応じて取り組んでいきたい。



授業内発表の様子

1 実施回数

- ①部活動における取組 5回 ②授業における取組（2単位授業として実施）

2 対象者

- ①教職員および生徒 ②3年生「手話の授業（コミュニケーション技術）」選択生徒（38名）

3 実施者

- ①手話コミュニケーション部 生徒 ②外部講師（ろう者）

4 実施内容

- ①手話の取組強化月間において、本校手話コミュニケーション部の生徒が毎朝、職員室にて「教科」に関する手話の紹介および実践を行い、教職員に説明を実施した。その後、各クラスで、担任から生徒全体に手話を紹介し、実践した。
- ②1年間を通して、手話の授業を実践している。手話未経験の生徒がほとんどを占めているため、手話の技術習得だけでなく、ろう者の特性から手話を言語としている人への対応などについても実践的に展開されている授業である。

5 生徒の感想等

- ①生徒の感想：教員に説明することへの緊張感があったものの、どのように伝えようかを考える機会となった。
- ②生徒の感想：手話に興味はあったものの、学ぶ機会がなかったため、1年間を通して学習したことで、手話を言語としている人への対応および手話による会話もできたことは、大きな喜びとなった。

6 成果・課題

- ①生徒が手話を知らない人に対してどのように伝えたら興味を持ってもらえるのか、分かりやすいのかを事前にきちんと考え、生徒同士で検討できたことは、生徒のコミュニケーション力の向上につながったと考える。
- ②手話を言語としている人に対して、手話表現、表情、動きの速さや大きさの重要性に気づくことができていた。最初は緊張、恥ずかしさがあったが、1年間を通して堂々としている生徒の姿が見られるようになった。

7 手話の取組強化月間以外の取組

本校生徒による中学生・保護者に向けた手話体験授業を実施した。手話を担当している教員とともに、手話コミュニケーション部の生徒および3年「コミュニケーション技術」の授業を選択している生徒が、中学生に本校で行っている手話学習の指導を夏休み中に実践した。



1 実施回数

集会でのあいさつを1回実施した。手話の動画を5月中視聴できる状況にし、図書館の手話コーナーもいつでも利用できるようにした。

2 対象者

全校生徒

3 実施者

総務渉外グループ

4 実施内容

- ・全校集会の前に時間を設け、教員による手話の挨拶講座を行った。
- ・全校生徒に Google Classroom を用いて、かなちゃんTV内の手話動画を視聴させ、フォームに感想を回答させた。
- ・図書館に手話に関係する本などを集めたコーナーを用意し、いつでも生徒が利用できるようにした。

5 生徒の感想等

- ・テレビで見たことがある手話の意味を知れてよかったです。手話の動きの発想が豊かで凄いなと思いました。
- ・手話は難しいものだと思っていたけど自分がいつも使うような動作があったりして身近に感じることが出来ました。
- ・覚えるのは難しそうだけど、すらすらと手話で会話できたら楽しいだろうなと思った。相手の目の動きをちゃんと見てコミュニケーションが取れるものだなと改めて分かった。

6 成果・課題

- 教員の挨拶や動画、本などで手話に触れ、手話を身近に感じたことで、手話をできるようになりたい、覚えたいという気持ちや興味を持たせることができた。
- 普段の学校生活の中でも、どのように取り組んでいくかを考えていくことが今後の課題である。

1 実施回数

5月17日～31日まで15日間

2 対象者

全校生徒

3 実施者

生徒会役員生徒、生徒会グループ職員

4 実施内容

- ・生徒総会において、生徒会役員が手話を交えて自己紹介をするとともに、5月が「手話の取組強化月間」であること、教室や廊下に手話に関するポスターが掲示してあることなどを全校生徒に紹介した。
- ・図書室に手話コーナーを設置し、手話の習得や、手話通訳士などの職業や資格について調べられる書籍を閲覧できるようにした。
- ・全クラスおよび、校内の各階に指文字のポスターを掲示し、手話に興味関心を持てるようにした。
- ・年度当初の全校集会で校長が手話で挨拶し、生徒たちの興味をひいた。また、本校HPの「校長のつぶやき」で、手話を介してコミュニケーションを取ることの喜びについて実体験を踏まえた紹介をした。

5 生徒の感想等

手話に興味があった。指文字で自分の名前を伝えたり、実際に手話でコミュニケーションを取ってみたいと思った。

6 成果・課題

手話の取組強化月間の紹介で手話に関心を持った生徒もいるので、一定の成果はあった。年間を通じて様々な場面で手話に興味関心を持たせる機会を作っていくことが課題である。

【取組について】相模向陽館高校では、「校長のつぶやき」として、学校のホームページに定期的に文章を載せています。例年5月は、神奈川県教育委員会の手話月間であることを踏まえ、手話や聴覚障がいに関する内容を掲載しています。

校長のつぶやき4（令和5年度）



こんにちは、校長の内田です。

ゴールデンウィークが終わってから、2週間以上が経ってようやく日常のペースが戻ってきたって感じです。ゴールデンウィークは長かったような、短かったような…。休みが続くと学校に行きたくなくなりますね。大人も子どもも同じです。でもちゃんと来るのが大人。仕事ですから。気持ちを入れ替えて頑張ってます（笑）。

5月も結構忙しいです。ゴールデンウィークで一週間短いはずなのに、出張が6日も入ってます。ふっ～。学校にいられる日が少ないのは、子どもたちにも会えないし、とても寂しいです。



5月 は手話月間

神奈川県では、「手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切に、支えあう社会を実現したい。」その理想を掲げて神奈川県手話言語条例が施行されました。そして、この趣旨にのっとり、神奈川県手話推進計画が策定されています。神奈川県教育委員会では、平成28年度から毎年5月を「手話月間」としています。

前にもお話をしましたが、私が初めて手話と出会ったのは、相模原中央支援学校に副校長として赴任した時です。相模原中央支援学校は知的障害教育部門、肢体不自由教育部門、視覚障害教育部門、聴覚障害教育部門の4部門がある全国的にも珍しい学校でした。今の学校のように毎日、教室を回るのが、4部門のうちで一番コミュニケーションが取れなかったのは聴覚障害教育部門でした。挨拶一つが通じない…。なんとか子どもたちと話したいと思って、挨拶から少しずつ覚えました。挨拶ができるようになると、相手も少しずつ心を開いてくれて、私の適当な手話でも少しずつ会話ができるようになりました。今でも会話ができるようになった時の嬉しさを覚えています。

聴覚障がいって見た目では全くわかりません。実はそこに健常者にはわからない「困りごと」があります。今日はその話題に触れてみたいと思います。

○障がいの状態

一概に聴覚障がいと言っても様々な状態があります。

ろう…生まれつき、または言葉を覚える前から聞こえない。

中途失聴…言葉を覚えた後で聞こえなくなった。発話に問題のない人がほとんどです。

※「話せる」と「聞こえる」は全く別物。話ができるからと言って、聞こえているとは限りません。

難聴…人によって聞こえ方は違うが、小さい音が聞こえにくい。補聴器を使って会話できる人から、



わずかな音しか聞こえない人まで様々です。
言語機能の障がい…言葉の理解や適切な表現が困難です。失語症・言語発達障がいなど。
音声機能の障がい…言葉の理解には支障はなく発声だけが困難です。吃音障がい・
構音障がい・発声機能の喪失など。

○聴覚障がいがある方の困りごと（例）

例1 生活音を聞き取ることができない

聴覚に障がいがある方は、生活音を聞き取ることができません。インターフォンの音に気付くことができません。車のクラクションも聞こえません。自分の起こす生活音がどの程度の大きさであるか本人は知ることができないため、知らないうちに隣人に迷惑をかける結果となりご近所トラブルに発展してしまうといった問題が起こる可能性が高くなります。



例2 人と会話するのが難しい

聴覚障がいの方のコミュニケーション方法としては、筆談、手話、口話の3つがあります。（他にも空書や身振り、指文字などがあります）

- ①筆談…紙などに文字を書く方法です。わかりやすい言葉で簡潔に書きます。ほとんどの人とコミュニケーションをとることができますが、コミュニケーションのスピードが非常に遅くなります。中には筆談が苦手な人もいます。
- ②手話…手や体の動き、顔の表情などで意思を伝える方法です。理解してくれる一般の方が少ないという問題があります。
- ③口話…相手の口の動きを見て言葉を読み取る方法です。コロナ禍にある現在ではマスクをする機会が多いため相手の口元を見るのが難しく、スムーズにコミュニケーションをとることが難しくなっています。

例3 周囲の情報を得ることが難しい

聴覚障がいの方は、周囲の情報を得ることが難しいといった問題もあります。
周囲の音による情報には、電車のアナウンスや車のエンジン音などが含まれるため、日常生活を送る上で大きな不便を感じてしまいます。音による重要な情報をキャッチすることができない可能性があるため、災害の時などは命に関わる問題になることもあります。



例4 障がいが見えから分かりにくい

聴覚の障がいは、外見から判断することができません。
そのため、その人に聴覚障がいがあると知らない人にとっては「声を掛けても無視された」などと誤解されることもあります。

例5 複数人での会話の流れを理解しにくい

聴覚に障がいがある方でも、一対一のコミュニケーションであれば比較的問題なく行うことができます。ただし、複数人での会話の場合には今、そして次に誰が発言するか分からないため、会話の内容を把握することができず、会話全体の流れを理解しにくくなってしまいます。

例6 音声通話ができないため緊急時の対応が難しい

音声のみによる会話が難しいケースがほとんどです。そのため、110番や119番に通報することや、エレベーターの非常停止ボタンを利用して、音声によって状況を伝えることができません。

○どうしたら聴覚障がいがある方の困り感が減る？

例1 スマホやスマートウォッチを有効に使う

手話もできないし、筆談をするにも紙とペンなんていつも持ち歩いてない。そんなときに有効なのがスマホです。ほとんどの人が日常的にスマホを持ち歩いています。スマホのメモに打って見せればいい。もしかして字を書くより早いかもしれません。家のチャイムもスマホやスマートウォッチに連動させて、振動で分かるようにしておけばOKです。パソコンやスマホに音声文字認識ツールをダウンロードして利用するのもいい方法です。

例2 ヘルプマークを付ける

聴覚障がいは外見からではわからないので、「無視してる」など、あらぬ誤解を受けることがあります。そのような事態をさけるために目立つ場所にヘルプマークを付けることも有効ですね。つけることで周囲の人が理解し、配慮してくれる場面もあると思います。

例3 聴覚に障がいがあることを周囲に伝えて理解を得る

聴覚障がいにはいくつかの種類や障がいの程度があり、それによって周囲にお願いする配慮にも違いが出てきます。そのため、職場の上司や同僚に自分の聴覚にどのような障がいがあるのかを伝え、理解を得ることも大切です。

例4 約束や大切なことはテキストにして残す

仕事の打ち合わせなどのスケジュールや、友人との大切な約束など、忘れてはいけないことや間違っただけで困ってしまうことについては、テキストとして残しておいたほうがいいです。紙でメモでもOKですが、これもスマホは有効ですね。

今回は聴覚障がいに関するマークの紹介をしたいと思います。



【聴覚障害者標識（聴覚障害者マーク）】

聴覚障がいであることを理由に面鏡に条件を付されている方が運転する車に表示するマーク。マークの表示については義務です。

危険防止のため、やむをえない場合を除き、このマークをつけた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。



【耳マーク】

聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人、聞こえにくい人への配慮を表すマークです。また、窓口に掲示されている場合は、聴覚障がい者へ配慮した対応ができることを表しています。



【ヒアリングループマーク】

補聴器や人工内耳に内蔵されているTコイルを使って利用できる施設・機器であることを表示するマークです。

このマークを施設・機器に掲示することで、補聴器・人工内耳装用者に補聴援助システムがあることを示し、利用を促すものです。



【手話マーク】

耳が聞こえない人が手話でのコミュニケーションの配慮を求めるときに提示したり、役所、公共及び民間施設・交通機関の窓口、店舗など、手話による対応ができるところが掲示できます。耳が聞こえない人が提示すると「手話で対応をお願いします」の意味、窓口等が掲示している場合は「手話で対応します」等の意味になります。



【筆談マーク】

耳が聞こえない人、音声言語障がい者、知的障がい者や外国人などが筆談でのコミュニケーションの配慮を求めるときに提示したり、公共及び民間施設・交通機関の窓口、店舗など、筆談による対応ができるところが掲示できます。イベント時のネームプレートや災害時に支援者が身に付けるピブスなどに掲示することもできます。



【ヘルプマーク】

義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見からわからなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方の配慮を必要としていることを知らせることができるマークです

今日書いた「困りごと」や「どうしたら困り感が減るのか」については、まだまだたくさんあると思います。あくまでも一例です。

障がいのある、なしにかかわらず、人には見えない、わからない困りごとは誰しもあるもの。私にだって困りごとはあります。そんなことを想像して、思いやりをもって、誰にでも対応できたらとても素敵だと思います。大事なことは相手の気持ちを思うことかもしれませんね。困っている時はお互い様です。

今日はここまでです（了）

手話ポスター紹介



▲横浜立野高等学校 美術部
1年 山口 雅隆



▲横浜立野高等学校 美術部 2年



▲横浜立野高等学校 美術部
3年 星 伊麻里



▲金沢総合高等学校
イラスト部3年次 三浦 愛桜



▲平塚江南高等学校 漫画研究部



▲藤沢工科高等学校 ボランティア部



▲厚木北高等学校
図書委員会広報係



▲厚木北高等学校
図書委員会広報係



▲厚木北高等学校
図書委員会広報係



▲厚木清南高等学校 生徒会
2年次 山口 結月

発 行 令和5年12月25日

編 集 者 神奈川県教育委員会教育局指導部
高校教育課長 渡貫 由季子

発 行 者 神奈川県教育委員会
〒231-8588 横浜市中区日本大通 1
TEL (045)210-1111 内線8260